

日本生薬学会海外派遣助成事業 (B-2)  
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

1. 派遣者

所属 日本大学薬学部生薬学ユニット 職名 大学院生 (D1) 氏名 矢作 忠弘

2. 研究集会名

(欧文名) The 50th Anniversary Meeting of the American Society of Pharmacognosy

(訳文名) 米国生薬学会50周年記念大会

3. 派遣期間 2009年06月27日 ~ 2009年07月01日 ( 5 日間 )

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字~800字で記載下さい。)

(概要)

米国生薬学会は、設立50周年を迎える歴史ある学会であり、今年度は米国・ハワイ・ホノルル(シェラトンホノルル)で開催され、各国の研究者が集い、招待講演や研究発表が行われた。また、記念大会だけあって発表数が多く、72題の口頭発表、537題のポスター発表が4日間にわたって開催された。

(成果)

28日からポスター発表及び口頭発表が始まった。日本の学会と違い、ポスター発表と口頭発表の時間が重複することなく時間帯がはっきり二分されているため、自分が聞きたい講演や見たいポスター発表を見逃すことなく見ることができた。生薬学会や薬学会では研究発表を見る事があまりなかったのだが、この米国生薬学会では海洋天然物化学の演題が数多く見受けられた。私は植物成分に関する研究を行なっているため、海洋から得られる見慣れない骨格を持つ化合物に非常に興味を持った。また、私が研究をしている『3T3-L1前駆脂肪細胞を用いたメタボリックシンドロームに有用な生薬成分の探索』に関する演題もいくつか発表されていた。そのうち韓国のグループは、同細胞を用いて糖の吸収に関する研究を行っていた。これは、私が以前から興味を持っていた内容だったので、今後研究を進める上で有益な情報を得ることができた。

私のポスター発表は現地時間29日(日本30日)のポスターセッション2の10時30分から2時間であった。『EFFECT OF FLAVONOIDS FROM FLOWER OF *ALBIZZIA JULIBRISSIN* DURAZZ. ON DIFFERENTIATION OF 3T3-L1 PREADIPOCYTES』という演題で発表を行なった。生薬学会及び日本薬学会と比べて、ポスター発表時間は2時間と長く設定されているが、その分有益な意見や多くの質問を受けることができた。また、このとき一番身を持って勉強の必要性を感じたのは英語である。英語でのコミュニケーション力をつけるために、普段から勉強する必要があると痛感した。

今回初めて国際学会に単身参加し、かなり不安もあったが、研究や語学の面で沢山の刺激を受けることができた。今後の研究生活に生かしていき、来年もこの米国生薬学会に参加したいと思う。

5. キーワード(本研究成果のキーワードを最大6つお書きください。)

- ①様々な国の研究者との交流 ②国際的に注目されている演題について  
③国際学会と日本の学会の違い ④発表の際に受けた有益な質問

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

海外で開催される国際学会に参加する際に、私のような学生にとって一番問題となるのは、旅費などの参加費用が高額になってしまうことである。今回、この助成金制度により参加費用を補助して頂き、負担が軽くなりとても助かった。金銭的な面で国際学会への参加を躊躇してしまう学生は沢山いるはずなので、今後も助成金制度を是非続けて頂きたいと思う。

《意見・希望等》

・助成金制度の存在を知らない方も多いと思うので、Journal of Natural Medicinesを会員に送る際に、助成金に関する紙を挟んでもいいのではないかと思います。

・申込締め切りが年度始まってすぐなので、もう少し猶予があった方がいいと思う。